

「活性化委員会の見解」を受けて

本日、関西テレビ活性化委員会より2007年12月31日付当社報告書に対する見解を頂戴致しました。これは1月11日の委員会でのご審議を経てお纏め頂いたものです。

当社の現在の取り組みについて、活性化委員会の方々には、[番組制作]のあり方や[内部統制システムの充実]など随所に高い評価を頂きました。何点かご指摘をいただいた部分については、委員会からの激励と受け止めて早急に取り組み、実現させる所存です。

[番組制作]につきましては、視聴者の声に耳を傾けながら、かつ過剰な自粛に陥ることなく番組作りに取り組むよう求められております。放送に対する責任を強く自覚しながら自由闊達に番組作りに取り組むよう、改めて自戒致します。

そのような番組作りの強い味方になる活性化委員会特選賞には大いに期待しております。

また、[メディアリテラシー]については、立命館大学と共同で行なう企画研究に関して高い評価を頂きました。あらためて感謝申し上げますとともに、4月からの開催に向け鋭意準備を進めてまいります。

[内部統制システムの充実]につきましては、当社の取り組みが順調に進行している、とのご評価を頂きましたが、これに安住することなくさらに努力を続けてまいりたいと思っております。

[経営機構改革]につきましては、ご指摘の通り経営機構改革全体の中で捉えなおし、活性化委員と当社経営陣の懇談会などで再度検討した上で、次回の委員会でご報告申し上げたいと思います。

また[経営機構改革の進捗状況]については、執行役員制度の導入や共同企画会議の設置などこの1年間の取り組みについて自ら振り返って評価するように求められております。

自らを評価することは大変難しいとは思いますが、当社が再生を果たすためには、改革への計画、そしてその実行、最後にその検証という一連のサイクルをきちんと回していくことが何より重要であると認識しており、導入した諸制度の現況、効果、課題を取りまとめ、改善を図ってまいります。現状に問題点があれば、次の総会時までには改善いたします。

最後に[改革への不断の取り組み]につきましては、まさにご指摘の通り「仏作って魂入れず」とならないように、全社を挙げて改革の努力と意思を継続させていきたいと思っております。